図書館通信

静岡大学附属図書館報

No.136

2001. 7

●シリーズ“！”他のキャンパスの本を利用するには●「大学の顔」としての図書館（附属図書館長）
●浜松分館の課題と展望（浜松分館長）●附属図書館利用セミナー実施報告●平成12年度図書館利用統計
●特集：電子ジャーナル●図書館の動き●夏休みのお知らせ

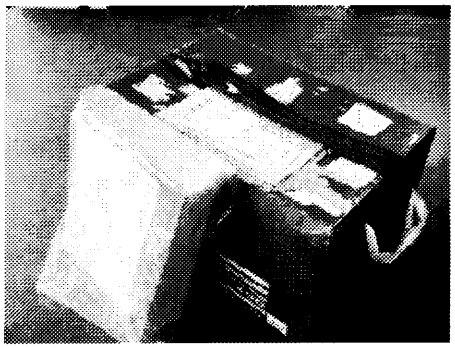
シリーズ“！” 第5回

他のキャンパスの本を利用するには

蔵書検索で本を探すと、静岡浜松お構いなしに表示されます。もし他のキャンパスにしか必要な本がなかった場合、どうやって手に入れればいいのでしょう。同じ大学とはいえ、ざっと８０キロはなれ、間に安倍川、大井川、天竜川の３本の一級河川を挟む、はるか遠方の地です。

書　　名：自然界における左と右 / マーティン・ガードナー著 ; 坪井忠二, 藤井昭彦, 小島弘訳
著　　者：Gardner, Martin, 1914-
　　坪井, 忠二(1902-1982)
　　藤井, 昭彦(1927-)
　　小島, 弘(1947-)
版　　：新版
出　版：東京 : 紀伊國屋書店 , 1992.5
形　態：vii, 500p ; 22cm
件　　名：科
　　自
他の書名：OR
注　記：原

項番	配架場所	資料番号	請求番号	資料状態	返却予定日
1	静図開架	0092036128	404/G22	貸出中	2001/07/16
2	浜開架	8398001753	404/G22	書架	



他のキャンパスにある本の資料状態が「書架」でしたら、「相互貸借申込書」に記入して、静岡は参考カウンター、浜松はカウンターに申し込んでください。週２回の定期便に載せて、それぞれの図書館に配送し、利用者のお手元にお届けします。

「大学の顔」としての図書館

附属図書館長　大江 泰一郎

大学の図書館というものは、利用者の側から見るのと、運営の側から見るのとは、すいぶんイメージが違うものだ。瓢箪から駒の成りゆきでこの４月に館長になって、あらためて実感するところである。利用者とくに教員つまり研究者の側から見ていると、自分の専門研究に関係した蔵書の部分しか普通は見えていない。本を読むのは私のばあい主として研究室だから、図書館の建物としての機能もほとんど眼には入っていなかった。ところが、運営の立場に立ってみると、蔵書の全体、その量的な側面や蔵書構成だけでなく、研究者に限らず学生やさらには市民から見た利用環境など、つまり図書館の機能全体が一挙に気になってくる。数年前に図書館委員として運営の一端を担ったとき、抽象的には「大学にとっての図書館」の意味などとうに承知していたはずだが、この実感はそう強くはなかったように記憶する。大学人としての自覚が足りなかったと言われれば、その通りだとひたすら反省するほかないけれども、これにはずいぶん戸惑う。

４月以来、こうした新たな立場から他大学の図書館なども見学してきた。図書館の機能を全体として視野に入れて、静大附属図書館はこれからどうあるべきかを考える。まず想い浮かぶのは、欧米の大学案内などの表紙によく出ている図書館の立派なたたずまいだが、その機能を考えるとき、私の記憶からまず蘇ってくるのは、人間という存在の「書物」ないし「テキスト」への執着である。端的な例で言えば、これはフィクションだが、「神は笑うか」という問題にかかわり、修道院図書館の奥深くに秘蔵されたアリストテレスのテキスト（『詩学』第２部）の所在をめぐって展開される14世紀の物語、あのU.エーコの小説『薔薇の名前』のいくつかのシーンである（この作品はショーン・コネリー主演で映画化された)。そこには、他ならぬ図書館という場において成立する、古典古代（アリストテレス)、中世とルネサンス（修道院写本室とアリストテレス的伝統の復興)、そして近代（唯名論哲学）の成層というプロットが埋め込まれている。古いものから新しいものが生まれるのだ。無からは何も生じない。比較法という学問にたずさわり、古代ローマ法 － ゲルマン法 － 近代法といった文化の成層を学ぶ私にとって、それは、実際の歴史以上に現実的な物語に見える（３月末に職務の引き継ぎを受けたとき、館長職心得の書として M.エル=アバディの『古代アレクサンドリア図書館』を私に贈られた前図書館長・浅井哲也先生も、おそらく同じような想いを抱かれていたのではないかと想像する)。

むろん記号学者エーコの作品の読み方はいろいろあろうが、私にとって、これは「テキスト」という知的営為、そしてその創造と蓄積を媒介する図書館がもつ、歴史的に見て巨大な衝撃力の話と映る。紙に書かれたものとしてのテキストの地位は、Ｎ・ボルツの『グーテンベルク銀河系の終焉』が説くように、ルネサンス以来の大転換点を迎えていることも確かだろう。だが、現代ではそのテキストは内容的には数式や画像でもありうるし、媒体はディジタルでもありうる。インターネットがその地位を完全に奪うことがまだかなり先のこと（？）だとすれば、テキストの世界で主要な役割をこれからも果たしていかなければならないのは図書館に他ならない。現に、ネット上で利用する「電子ジャーナル」の問題に正面から取り組んでいるのは、いま大学図書館なのである（映画版『薔薇の名前』に出てくる迷宮脱出用の「アリアドネの糸玉」は現代の Web of science や OPAC を暗示しているのかもしれない)。University つまり教養部門を基底に諸学を統合している学問機関としての大学が、知的な自己主張（「情報発信」）をするときに、図書館はいぜんとしてすこぶる大きな役割を果たすことを求められている。「大学の顔」というのは、大学が必ずしも立派な建物としての図書館をもつということではない（それが些末な問題だという意味ではむろんない）が、利用しやすくて充実したコンテンツをもつ図書館はそうしたものとして、これからも評価の対象になるはずであり、こうした視点に立つとき、静大附属図書館はいま大きな課題を抱えているのだと思うわけである。勿体ぶった言い方になるようで恐縮するけれども、私の戸惑いも、そこから出ているといってもいい。

本学では、今年度から図書館経費が全学共通経費化された。その限りで、附属図書館はこれまでよりもずっと安定的な財政基盤に立つことになった。しかし、それで図書館経費が底上げされたわけではない。運営費・資料費ともに、

大学附属図書館として十分な水準にあるわけでないことも周知の通りである。本館・分館ともに建物も極度に狭隘化している。いずれも将来を期すること言うまでもないが、さしあたりは既存の枠組のなかで知恵をしぼって、まずできることから改善に取りかかりたい。図書選定の方法の見直しが、その第一歩になろう。大学設置形態の転換が焦眉の日程に上っているが、大学運営にかかわる諸賢には、「個性輝く大学」における附属図書館の戦略的な位置づけに配慮されんことを切にお願いしたい。歴史的にも言えることだが、今でも、大学にとっては「はじめに図書館ありき」なのだから。

（人文学部法学科比較法文化論）

浜松分館の課題と展望　－－－分館長に就任して－－－

浜松分館長　鎌田 哲宏

いまから７年ほど前、静岡大学は開学以来の大変革の時期に突入していた。さまざまの改革案が検討されたが、結論として、教養部を廃止し、新学部の設立を目指す方針が決められた。当時、教養部の評議員であった私は評議会の中のワーキング・グループで「教養部廃止後の教養教育」を実施する組織体制を確立する原案作成に参加していた。

一方、新学部は、理系と文系を融合した国立大学では初めての「情報学部」を浜松キャンパスに設置する構想が固まり、その「文系」に社会学を中心とした「情報社会学科」が置かれることになった。こうして、私は新学部設立事業にも深くかかわることになった。この事業は経験した者でなければ分からない大変な困難を乗り越えなければならなかったが、しかし、それはまた、加速度的に情報化の速度を上げ始めた現代社会に必要不可欠な教育・研究機関をつくりだすという、大きな夢を実現するものでもあった。その夢は多くの教職員の献身的な努力によって、平成７年１０月に現実のものとなった。

情報学部の８階建ての立派な新校舎も完成し、工学部も情報学部も一年生から浜松キャンパスに入る４年一貫教育も始った。学生数は倍増し、初初しい一年生、明るい雰囲気をあふれさせる女子学生など、キャンパスは活気に満ちて、すべてが順調に進展しているように見える。情報学部大学院設立準備委員会の委員長を最後に、６年半におよぶ評議員の激務を終え、肩の荷を降ろし、心身の疲れを癒す日々を一年余り過ごしたが、しかし何時も心にかかることがあった。キャンパスの心臓ともいうべき図書館分館のことである。

情報学部の設立時に分館を見て回って愕然とした。工学部の３年生以上の学生と教官しか利用しない分館では、文系の書物や学生用図書はほとんど全くなかった。その後、ある程度は改善されたが、情報社会学科の学生用や共通教育用の文献や資料は貧弱なままである。情報学部の一期生の卒業時の感想文に「分館はレポートや卒業論文の作成には全く役に立たなかった」と書かれていた。胸が痛む思いであった。

しかし、この４月から分館長に就任して、私の心は明るくなっていった。今年度、三千万円の予算が獲得され、学生用図書、年鑑、白書、統計書、ビデオテープなどの大幅な充実が可能となり、現在その選定作業が進められている。分館の入り口近くに学生用のコピー機が設置されるなどの改善もはじまっている。さらに、総合情報処理センターと分館合同の増改築が計画され、概算要求が認められると、地下１階地上６階の立派な分館が出来上がることになるが、その可能性はかなり高いと思われる。しかし、私の心を最も明るくしてくれるのは分館で働く職員の人たちである。１０人に満たない人数で、倍増する仕事を、いつも明るく元気にこなしている姿を見ると、私も勇気と元気がわいてきて、分館長になってよかったと思う。分館長室で６階建ての新築計画の設計図を見ながら、各階、各室の出来上がった状態をあれこれ想像している時が、現在の私の至福のときである。

（情報学部情報社会学科情報社会システム）

平成13年度附属図書館利用セミナー実施報告

昨年に引き続き、新入生セミナーの１コマを利用した附属図書館利用セミナーを４月16日から７月12日まで実施しました。今年度は昨年にも増して多くの教員の方からの希望があり、本館では新入生の約93％にあたる1,270人の参加者がありました。今年度から実施された浜松分館においても、新入生の約67％にあたる576人の参加者があり好評のうちに終了することができました。

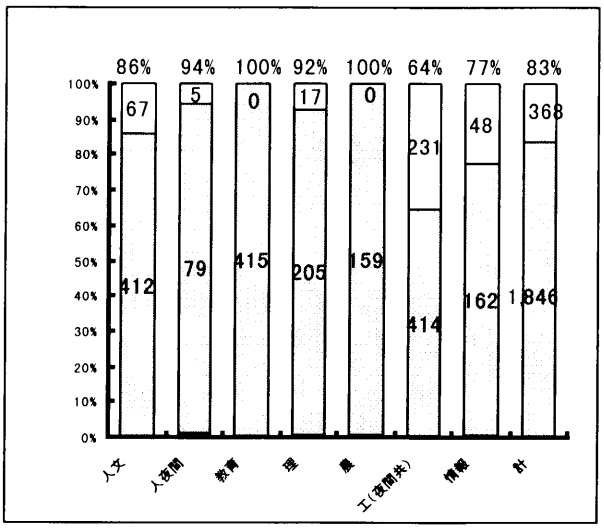
新入生を対象としたこのセミナーでは図書館に慣れ親しむ事を基本に、図書館案内、パソコンによる資料検索、書庫内資料検索等を実際に体験してもらいました。今年度は時間を有効利用するためにプレゼンテーションソフトを使用して、館内案内、検索デモを行った結果、ビジュアル的にとても分かり易いデモであったと学生および担当教員から感想を寄せていただきました。

また、本館では最新式のパソコンが１８台増えて３４台となり、資料検索実習では全員の参加者が熱心に演習問題に取り組んでいました。

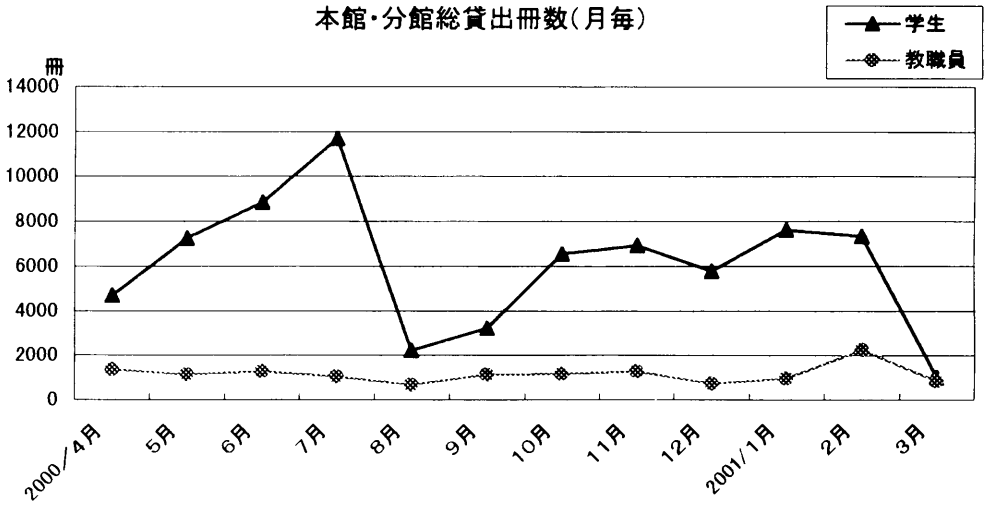
先生からのアンケートでは、「今後、講義の中で検索させる機会を設けたい。そうすることで図書館を利用するスタイルを確立していきたい」など、図書館の教育支援活動を積極的に受け入れる意見も出されました。また、学生からは「検索のやり方が分かり良かった。４年間でバリバリ使えるようにしたい」など、実習で検索方法をマスターした喜びの声が沢山出ました。

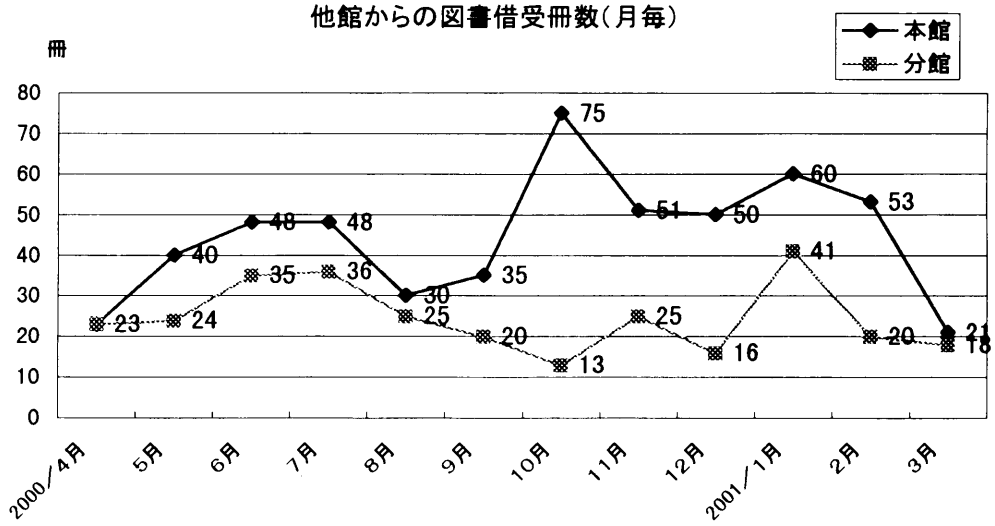
昨年から２回目の経験となった図書館職員も少し余裕が出てきた様子で、早くも来年に向け利用者教育のレベルアップのため検討を始めています。今後、さらに教養教育担当の先生方と連絡を密にしながら、その充実を図っていきたいと考えています。

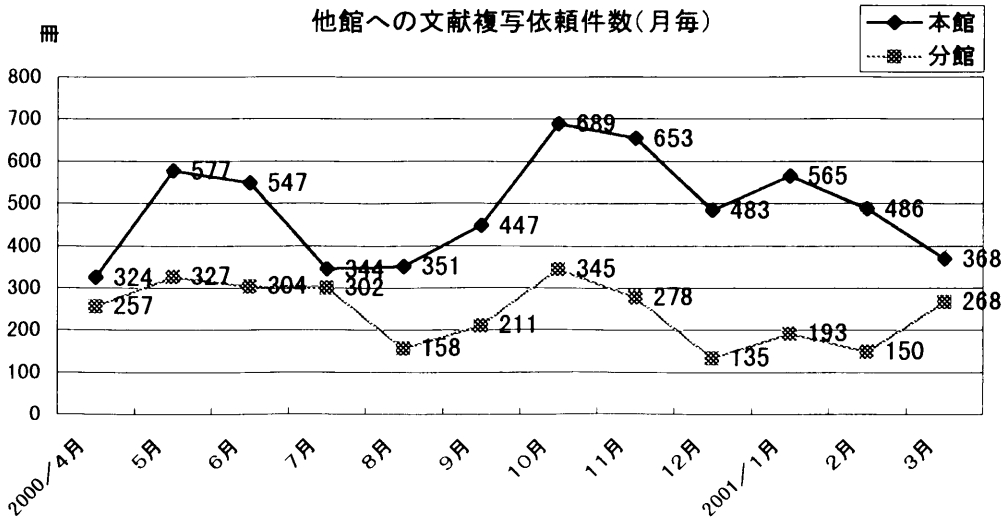
学部別受講率



◆◇　平成12年度図書館利用統計　◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆







特集 ： 電子ジャーナル

電子ジャーナルの利用に関するアンケート調査の結果について

図書館では電子ジャーナルの利用状況を把握するとともに、今後の導入方針の参考とするために全教員を対象として、アンケート調査を実施しましたので、その結果を報告します。
アンケート調査期間 ： 平成１３年５月９日 － 平成１３年５月３１日
アンケート調査対象及び回収状況 ： 対象数 ７６０ ， 回答数 ２２９ （回答率３０．１％）

アンケート調査結果：

１．電子ジャーナルを利用したことがありますか。

はい	１２１
いいえ	１０８
合計	**２２９**

「いいえ」と答えた方へ、利用していない理由は何ですか。（複数回答可）

利用できることを知らなかった。今後は利用したい。	４１
利用したい雑誌がなかった。	４６
利用できることを知らなかった。今後も利用する予定がない	８
その他	１７
合計	**１１２**

「はい」と答えた方へ、以下についてお尋ねします。
（１）その電子ジャーナルはどれに該当しますか。（複数回答可）

静大図書館ホームページで提供されているもの。	５４
図書館以外（私費、研究室等）で契約しているもの。	５６
その他	５３
合計	**１６３**

（２）どの分野を中心に利用されていますか。（複数回答可）

人文社会科学	１２	農学	１９
理学	７３	医学薬学	１８
工学	４８	その他	２

（３）利用頻度はどの位ですか。（複数回答可）

毎日のように	２２
週１－２回	４４
月１－２回	３８
ほとんど利用しない	１３
合計	**１１７**

（４）利用されている電子ジャーナルの具体名は何ですか。（複数回答可）
利用されているもの１０誌

Nature	１４	Japanese Journal of Applied Physics	6
Science	１１	Journal of Chemical Physics	5
Physical Review Letters	9	Journal of Biological Chemistry	5
Applied Physics Letters	8	Mathematical Reviews	5
Journal of Applied Physics	6	Physical Review B	5

２．電子ジャーナルの本格導入について

積極的に導入すべき	１６５
時期尚早	１０
賛成だが負担不可	３２
その他	１３
合計	**２２０**

「積極的に導入すべき」と答えた方にお尋ねします。
費用負担の方法についてどの案が最良とお考えですか。
（＊「積極的に導入すべき」と答えた方以外の回答含む）

全学の共通経費を図書館で配分して負担	８３
閲覧分だけ該当研究室で負担	５０
閲覧に関らず全学部で平均負担	１６
その他	１８
合計	**１６７**

その他多数のご意見ご要望をいただきました。紙面の都合上全てを掲載することは出来ませんが、今後電子ジャーナルサービスの導入の参考とさせていただきたいと思います。今後、電子ジャーナルについて様々な情報を掲載していきたいと思います。ご期待ください。

図書館の動き

◆会　議

平成13年度東海地区国立大学図書館協議会総会

（平成１３年４月２０日（金）於：愛知教育大学）

図書館長、事務部長、情報管理課長、情報サービス課長が出席。

国立大学図書館協議会関係諸会議の報告に続いて、文部科学大臣等に対して特に要望すべき事項、国立大学図書館協議会総会の分科会で検討するための協議題等について活発な協議が行われた。

また、当面の諸案件として、電子ジャーナルに係る協議・検討及び地域との連携方策等について、各大学等における現況などについて情報交換が行われた。

平成13年度国立大学附属図書館事務部課長会議

（平成１３年５月２９日（火）於：東京医科歯科大学）

事務部長、情報管理課長、情報サービス課長が出席。

文部科学省研究振興局長の挨拶に続いて、学術機関課長から学術行政や大学図書館の当面する諸問題についての説明、また名古屋女子大学評議員による大学図書館の構造改革についての講演等、多彩な講演・説明が行われ、当面する諸問題への積極的な取り組みについて共通の認識を深めた。

平成13年度第１回静岡大学附属図書館委員会

平成１３年５月８日（火）

○審議事項

1．大型コレクションの申請について
2．東西地区における個別事項の検討組織の在り方について
3．附属図書館関連委員会について

○報告事項

1．附属図書館経費について
2．附属図書館利用セミナーについて
3．電子ジャーナルの導入について
4．平成１３年度本館学生用図書選定計画について
5．夜間開館延長にかかる利用状況（本館）について
6．研究費にかかる図書購入請求（本館）について

◆人事異動

平成１３年４月１日＜任期満了交替＞

館　長　浅井 哲也→大江 泰一郎
分館長　岡村 静致→鎌田 哲宏

平成１３年３月３１日＜定年退職＞

下村 一夫　（事務部長）

平成１３年４月１日＜転入・転出＞

石川　　護（文部科学省大臣官房政策課情報化推進室室長補佐→事務部長）
戸塚　　章（管理運用係主任→理学部総務係主任）
芹澤　　誠（農学部総務係主任→管理運用係主任）
鈴木　健太（総務係→経理部経理課情報企画係主任）
前田　勝典（豊橋技術科学大学教務部図書課→管理運用係）
横井　華子（日本学術振興会研究事業部研究事業課→総務係）
橋本三千代（管理運用係→東京学芸大学情報サービス課）

平成１３年４月１日＜配置換＞

近藤　久直（システム管理係→管理運用係）
釜田香寿枝（管理運用係→システム管理係）
村上真佐子（資料受入係→目録情報係）
小林由佳里（目録情報係→運用係）
杉山　泰代（運用係→資料受入係）

◆平成１３年度附属図書館委員会

館長	大江泰一郎	
浜松分館長	鎌田 哲宏	
人文学部	今井　駿	佐藤 信一
教育学部	笹沼 弘志	西森 珠貴
情報学部	小西 達裕	
理学部	谷本 光敏	鈴木 雅一
工学部	前田 恭伸	松丸 隆文
農学部	原田　久	釜谷 保志
理工学研究科	鈴木 信行	
電子科学研究科	河本　映	
電子工学研究所	坂口 浩司	松本 晃一
附属図書館	石川　護	

◆平成１３年度図書館通信編集委員

館長	大江泰一郎	
教育学部	西森 珠貴	
工学部	前田 恭伸	
附属図書館	郡司　久	横井 華子
	杉浦 昭重	村上真佐子
	尾藤 泰代	真中　進
	横山 芳美	釜田香寿枝

夏休みのお知らせ

本館（静岡）

****

●夏休みの開館予定

7月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

□ 開館　平日　9:00～22:00　土曜日　11:00～19:00

□ 開館　平日　9:00～17:00　各季の休業期間中

■ 休館　日曜・祝日、創立記念日、年末年始、各季の休業期間中の土曜日

※　その他の臨時の休館日は、別途お知らせします。

●返却期限日の変更

平成 13 年 7 月 25 日(水)から平成 13 年 9 月 25 日(火)までに貸出した図書の返却期限日は、次の通りです。

平成１３年１０月９日（火）

分館（浜松）

****

●夏休みの開館予定

7月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

□ 開館　平日　9:00～21:00　土曜日　9:00～17:00

□ 開館　平日　9:00～17:00　各季の休業期間中

■ 休館　日曜・祝日、創立記念日、年末年始、各季の休業期間中の土曜日

※　その他の臨時の休館日は、別途お知らせします。

●返却期限日の変更

平成 13 年 7 月 18 日(水)から平成13 年 9 月 3 日(月)までに貸出した図書の返却期限日は、次の通りです。

平成１３年９月１７日（月）

静岡大学附属図書館報　「図書館通信」　第１３６号　（平成１３年７月５日発行）
発行所　静岡大学附属図書館　〒422-8529　静岡市大谷 836　Tel. 054-238-4475　Fax. 054-238-5408
URL　http://www.lib.shizuoka.ac.jp/home.html